当院における輸血精度管理について

試験管法に対する内部精度管理

◎田代 健一朗[1)]、服部 麻美[1)]、山中 良之[1)]
医療法人 徳洲会 岸和田徳洲会病院[1)]

【はじめに】平成30年に施行された医療法改定において,内部精度管理の実施,外部精度管理調査の受験及び適切な研修の実施関係（改正後医療法施行規則第9条の7の2関係）が定められた.留意事項として医療機関に対する努力義務とされているものの、その重要性は明確である.輸血分野においても例外ではなく,用手法での輸血関連検査が多くの施設で実施されている現状では,特に内部精度管理の実施,適切な研修の実施において,各施設の取り組みが問われるところである.当院で実施している内部精度管理の方法,研修制度について若干の考察を交えて紹介する.

【対象・方法】内部精度管理においては,当院で主に輸血検査を担当する7名を対象とした.精度管理には検査試薬の品質管理ならびに,検査プロセスの品質管理が重要である.
ABO血液型の精度管理においては各抗血清と血球試薬を掛け合わせるクロスチェックを実施.Rh(D)血液型の精度管理には不規則抗体スクリーニング血球のR1R1血球とrr血球を使用している.交差適合試験の精度管理については,QuidelOrtho社のリファレンス抗D試薬を用い,照射赤血球液-LRに対して間接抗グロブリン試験を実施している.
研修制度としては,当院検査室において輸血検査に携わる機会のある全技師を対象として,凝集を正しく捉えるための院内研修を実施している.輸血業務担当者が準備した研修用試料を用い,ABO血液型,Rh(D)血液型,不規則抗体スクリーニング,交差適合試験を実施.　それぞれの反応強度を含めた結果の乖離についてその場で検証し必要に応じて指導している.

【結果】内部精度管理はその意義も含めて浸透し、輸血関連検査における正確性・確実性に貢献できていると言える.
研修制度については,結果が収束するものと,バラつき生じるものとが明確であった.

【考察】内部精度管理の実施は輸血検査の責任を自覚すると共に,リファレンス抗D陽性検体による弱陽性像を確認することは、自身の判定能力に自信をもたらすものである.
定期的な研修制度もまた,指導する側,される側共に輸血検査制度を担保する上で重要であることを再認識した.

連絡先 072(445)9915(代表)